

1. 件名：IRSRR 活動に関する JAEA 打合せ

2. 日時：令和 5 年 4 月 26 日（水）15:00～16:00

3. 場所：原子力規制庁 2 階小会議室

4. 出席者

原子力規制庁検査監督総括課 片岡主任検査監視官、渡邊補佐

核燃料施設等監視部門 木村管理官補佐

JAEA 安全・核セキュリティ統括本部 安全管理部次長（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

1) IRSRR 活動の紹介

- 国際原子力機関（IAEA）は、世界の研究炉の運転経験に関する情報交換を通じて、同様な事象を他の施設で繰り返すことがないように IAEA は研究炉事象報告システム（IRSRR）を 1997 年に構築し、運用している。IRSRR 活動には、各加盟国が規制機関からノミネートされるナショナル・コーディネータ及び研究炉設置者等からノミネートされるローカル・コーディネータが参加する。
- 安全上重要な最近の事象に関する情報交換を行い、IRSRR の運用、システムの改善に資する議論を目的として、加盟国のナショナル又はローカル・コーディネータが 2 年に一度参集する定例技術会合が開催されている。日本は第 3 回（2003 年）から定例技術会合に参加し、第 9 回（2015 年）から第 13 回（2023 年）までは、原子力規制庁のナショナル・コーディネータのみが参加した。原子力規制庁から、定例技術会合において、他の加盟国では、ローカル・コーディネータも参加していることが少なくない旨を日本原子力研究開発機構（JAEA）に説明した。
- 次回の定例技術会合は 2025 年に開催される予定である。原子力規制庁から、日本からのローカル・コーディネータとして JAEA に定例技術会合への参加を検討するよう依頼した。JAEA において、定例技術会合への参加の可否について継続検討していくことを確認した。

2) 運転経験反映活動に係る情報交換

- IRSRR 情報をはじめとする国内外の原子力施設の運転経験情報を調査・分析し、類似事象の再発を防ぐための活動（運転経験反映活動と言う。）は、規制者でも事業者でも行われている。IAEA 安全ガイドでは、こうした運転経験反映活動について、規制者と事業者で情報交換することが推奨されており、国内では、原子力規制庁と原子力安全推進協会との間で、主に実用発電用原子炉設置者と日本原燃の活動について定期的な情報交換を行っている。
- 原子力規制庁核燃料施設等監視部門では、四半期毎を目安に JAEA を含む核燃料施設等を有する事業者との意見交換会を行っており、このような場を利用して運転経験反映に係る情報交換を行うことを検討していくこととした。

6. 参考資料

資料 1 Incident Reporting Systems for Nuclear Installations

<https://www.iaea.org/resources/databases/irsni>

資料 2 第 45 回 JANSI 定例情報交換会（令和 4 年 10 月 31 日）議事要旨

<https://www2.nra.go.jp/data/000411297.pdf>

以上